活動レポート

守山市における安寧のまちづくり

谷口栄一　安寧の都市ユニット長
京都大学大学院工学研究科教授

滋賀県守山市は琵琶湖の南部に位置する人口約7万7,000の都市であり、大阪、京都のベッドタウンとして今も毎年1,000人程度の人口増加がみられる。

安寧の都市ユニットを医学研究科と工学研究科が共同で構想した時の医学研究科の責任者であった笹田昌孝京都大学名誉教授が、守山市の滋賀県立成人病センター総長として赴任された。そのようなこともあり、守山市に安寧の都市のモデルを創ろうという話が約2年前に始まった。

2011年2月に守山市長に当選された宮本和宏氏もこの構想に賛同され、安心安全かつ健康的に生き生きと生活できるまちづくりを一緒に実践することになった。さらに、実際にまちづくりを支援する、NPO法人「健康生活まちづくり」（木下博夫理事長、本部・東京都千代田区）が設立され、情報交換の場を提供し、さまざまな政策に関する助言を与えることとなった。

守山市を「安寧の都市」にする四つの提案

このようなプレーヤが出そろってきたため、2011年8月27日（土）－28日（日）に、守山市内で安寧の都市を構想し、実践するための1泊2日のワークショップが開催された［資料1］。当日の出席者は、京都大学安寧の都市ユニットから谷口と社会人履修生3名、成人病センターの笹田総長、NPO法人「健康生活まちづくり」から木下理事長、滋賀県医師会長の笠原吉孝理事など15名、京都大学生存基盤科学ユニットの高谷好一名誉教授、龍谷大学社会学部の井上辰樹教授および学生5名、宮本守山市長をはじめ守山市の関係職員が約10名であった。

木下理事長より「健康生活まちづくりの理念」について、谷口より「安寧の都市について」、笹田総長より「自立・生きがいを感じるまちづくり」について講演があった後、宮本市長より守山市のまちづくりについて、住みやすさ日本一を目指したいというお話があった。

会議では3世代が健康的に生き生きと生活できるまちづくりのために、次のような提案がなされた。

▶資料1　守山市における安寧のまちづくりに関するワークショップ（発表を行う宮本市長）（2011年8月27日）

❶自動車に過度に依存せずに歩行、自転車、公共交通の利用を促進すること
❷中山道の宿場町としての文化・歴史を生かしたまちづくりを行うこと
❸豊かな田園地帯、琵琶湖の水という自然の恵みを十分に取り入れること
❹高度な医療サービスを提供するための基幹病院と一般の病院・診療所の連携を進めること、高い教育水準を維持発展させること

守山市の高齢化率はまだ17％程度であるが、今後高齢化率が高くなることが予想されることから、この10－15年間に超高齢社会への対応を確実に実施する必要があることも指摘された。結論として、参加者全員がそれぞれの立場で安寧のまちづくりを進めることで合意がなされた。

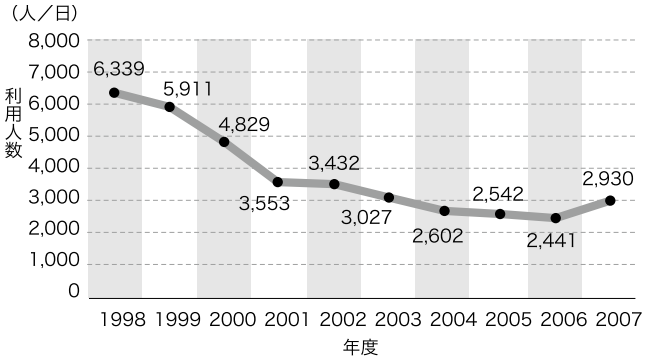
「路線バスはこうあってほしい」住民の生の声がつまった改善案

京都大学安寧の都市ユニットとしては、守山市の公共交通、特に路線バスに着目し、安寧の都市を創る一環としてバス交通に関する研究を行っている。2011年度においては、路線バスに対する住民のニーズを的確に把握するためのグループインタビューおよびアンケート調査を行っている。

守山市におけるパーソントリップ調査の結果によると、自動車の分担率が高く、どの地区においても50－60％になっている。一方、バスの分担率はほぼ1％という低い数字になっている。また、バスの利用者数は［資料2］に示すように、年々減少傾向にある。1998年に1日6,300人あった利用者は、2007年には3,000人程度に落ち込んでいる。

このような事態は、バスの本数の削減につながり、ひいては車の運転ができない高齢者や学生などの移動の手段を制限するものであり、生き生きと生活することを目指す安寧の都市においては、大きな問題である。そのため、現在の路線バスの問題点や具体的な改善要望について、各自治

▶資料2　守山市の路線バスの利用人数



〈守山市統計書をもとに作成〉

会において10－15人の住民を対象にグループインタビューを実施している [資料3]。

住民の主な意見として、次のようなものがあった。

❶運転免許を持たない高齢者は、路線バスに乗りたいと希望しているが、バスの頻度が1日に9本程度で、あまりにも少ない。
❷JR線の新快速電車が少しでも遅れるとバスに乗り継げなくなり、次のバスまで1時間も待つ必要がある。バスで病院に行くには守山駅まで行って乗り換えなければならないので、病院への直通バスを出してほしい。
❸守山駅までの料金が500円と高額であり、学生の定期の割引も少ない。市民ホールや図書館などの市内の施設に行けるバス路線がほしい。最終バスは夜8時台だが、10時頃まで走らせてほしい。

このような意見を集約し、今後路線バスについて、路線の再編、ダイヤの見直し、JRとの連絡、病院やショッピングセンターとの連携、学生の利用促進策などの改善方策について提案を行うことにしている。また、路線バスの導入が採算面から困難な地区については、デマンドタクシーなどの導入を検討したい。

コミュニティの活性化につながる！グループインタビューのおもしろさ

グループインタビューの特徴は、住民の生の声を直接に聴けることである。グループインタビューは単なる調査にとどまらず、住民の意識を変容させることも可能であり、住民が積極的にまちづくりに参加するきっかけにもなる。具体的な例として、ボランティアで自分が運転してもよいという人が住民の中におられる。

また、今は自動車を運転できるが、10年後には高齢のために運転できなくなることが考えられるので、なんとかバス路線が廃止にならないようにと、路線バスを利用して老人会のイベントを企画している方もおられる。

このようにグループインタビューは、まちづくりの一つのプロセスであり、住民参加によるコミュニティの活性化のためのよい手段であると考えられる。

守山市においては、市長を先頭に安寧のまちづくりをしようという運動が始まっている。私たちも、10－15年後の安寧の都市の姿を描きながら、地元の行政、住民、病院、企業の人々と協働してまちづくりを推進したい。

▶資料3　守山市の谷野井自治会におけるバスのニーズに関するグループインタビュー